

日韓社会の「記念日」

金 泰 虎

キーワード：記念日、記念、結婚記念日、誕生石、バレンタインデー、ホワイトデー

はじめにー記念日とはー

人間生活の営みの中では、数多くの「記念日」が存在している。とりわけ、近代国民国家成立以降に成立している「記念日」を制定主体に基づいて大きく分けると、次のように考えられる。つまり、政府や省庁の主導、社会の諸団体、企業や業界組合、そして個人レベル（Level）の「記念日」である。社会の諸団体とえば、当然、企業や業界組合も含まれるが、以下では利益の追求を重視する企業や業界組合は、敢えて社会の諸団体には入れず、「企業や業界組合」という別枠を設ける。

本稿では、「記念日」の制定主体に配慮しつつ、前近代から今日に至るまでの時代区分として①前近代、②近代国民国家成立からグローバル（Global）化時代の到来まで、③グローバル化時代に入ってから今日までという3つの時期に分けて論を進める。そこでは日韓社会に広く広がっている「記念日」、ないしは「記念日」に類似したイメージ（Image）をもつ催しや祝い事を取り上げる。日韓社会において認知度が高く、かつ広く知られている「記念日」の形成や、その特徴を分析することで、日韓社会のあり方を位置付けることにする。

日韓の「記念日」を論ずるに当たって、従来「記念日」とは何か、必ずしも明確ではないため、まずその定義を行うことから始める。「記念日」という語彙そのものにどんな意味が含まれているかに着目して行く。

日本語の「記念日」について、英語を交えて考えることにする。「記念日」の英訳は「anniversary」や「commemoration day」とされる。前者の「anniversary」はラテン（Latin）語の「anniversarius」から由来している。「anni」の「毎年」、つまり「周年」、「vers」の「回る」、「ary」の「関係するもの」の合成語で「毎年、回ってくる関係するもの」である。つまり、「anniversary」は毎年、回ってくるという周期性、そして個人的な祝いの意味合いが強い。後者はラテン語の「commemoratus」（思い出される）から由来しており、詳細には「com」（強意）に「memorate」（思い出させる）が加わっており、周期性はなく、共に思い出すという意味がある。

さらに、「記念日」とも言える「memorial day」における「memorial」は、ラテン語の「memorialis」がその語源であり、記念覚書という意味である。『ジーニアス英和大辞典』

によれば⁽¹⁾、形容詞としての「memorial」は「記念の」・「追悼の」と記される。その意味で「memorate」（思い出させる）とほぼ同じ意味合いである。

この「anniversary」や「memorial」を用いている代表的な語彙として「a wedding anniversary」や「a memorial service」が取り上げられるが、日本語ではそれぞれ「結婚記念日」や「追悼式」と記するのが一般的である。ここでも「anniversary」は毎年、回ってくる周期性、一方、「memorial」は一過性の意味合いであることを確認することができる。

『広辞苑』⁽²⁾では、「記念日」は「記念すべき物事のあった日」、「思い出の日」と記しており、「記念日」に当たる「anniversary」は「嬉しくて明るい」イメージである。反面、「memorial」は、その和訳の「記念の」・「追悼の」から「嬉しくて明るい」、そして「悲しくて暗い」という両面性のイメージをもっている。しかし、「memorial」という語句を用いる他の「memorial park」（墓地）、「memorial grounds」（霊園）、「Memorial day」（米の戦没者追悼記念日）から「memorial」は暗いイメージがより強い。さらに、「The Kennedy Memorial」は、一般的に「ケネディ記念館」と和訳されるが、ケネディが暗殺されてからの施設なので、「悲しくて暗い」イメージが強いと言える⁽³⁾。ちなみに、「commemoration day」における「memorate」（思い出させる）は、「memorial」の片面だけの暗いイメージである。

では、「記念日」と「記念」はどう違うのか。一般的に、両者にはともに祝うという意味合いが含まれている。「anniversary」や『広辞苑』からわかるように、「記念日」には「嬉しく明るい」に加えて、周期性の意味合いが含まれる。一方、「memorial」の「記念の」という意味からすると、「記念」は「嬉しく明るい」、そして周期性はなく、ある日を一過性で「記念する日」のイメージが強い。例えば、会社の創立「記念日」には、毎年、回ってくる周期性、定年退職記念の「記念」には、一過性の祝い事という意味合いが感じられるように、「記念日」や「記念」という言葉にはイメージとして明るい事柄を祝うという面が共通点しているものの、周期性に関する有無については異なっているのである。このような「記念日」や「記念」の相異は、日韓ともに同じ意味合いで理解して差し支えはない。

以上、定義した「記念日」は日韓に数多く存在している。ここでは中でも日韓社会の広範囲において広がって広く認知されている「記念日」を取り上げる。基本的に、政府制定の休みの日は議論せず⁽⁴⁾、日韓社会の人々の生活に広く浸透している「記念日」を中心に考察を行う。

第1章 前近代における日韓の年中行事

すでに、言及してきた「記念日」、つまり周期性があって「嬉しく明るい」というイメージと類似している前近代の日韓における行事には、いかなるものがあつたのだろうか。

まず、前近代における日韓社会の特徴について、簡単に確認をしておきたい。前近代の日韓は、農業に基盤をおく農業社会であり、社会を動かす原動力となる経済は農業に基づいていた。農業と人々の生活は一体で密接に結ばれており、前近代の日韓社会において「記念日」と言えるものは農業と深く関わるものである。

次の「近現代における日韓の24節気」は、農業や人々の暮らしが密着しているものである。ちなみに以下、前近代の日本の諸行事は『年中行事事典』や『年中行事大事典』⁽⁵⁾、一方、韓国に関しては『韓国歳時風俗事典』の内容を参考にしている⁽⁶⁾。

(表1) 前近代における日韓の24節気

季節	節気名	日付 (陽暦)	特徴
春	立春	2月4～5日	春の気配が現れる時期
	雨水	2月19～20日	雪や氷が溶けて流れ、農作準備の目安となる時期
	驚蟄	3月5～6日	冬眠していた虫が出てくる時期
	春分	3月21～22日	昼と夜の長さが等しくなる時期
	清明	4月5～6日	草木が芽吹いてすがすがしく明るくなる時期
	穀雨	4月20～21日	春雨が穀物の生長を助けて芽が伸びてくる時期
夏	立夏	5月6～7日	夏の気配が漂う時期
	小満	5月21～22日	草木が成長して天地に満ち始める時期
	芒種	6月6～7日	籾殻のようなとげのある植物の種をまく時期
	夏至	6月21～22日	昼の長さが最も長くなる時期
	小暑	7月7～8日	日増しに暑さが本格化する時期
	大暑	7月23～24日	暑さが絶頂期に入る酷暑の時期
秋	立秋	8月8～9日	秋の気配が現れてくる時期
	処暑	8月23～24日	暑さが後退し始める時期
	白露	9月8～9日	大気が冷えてきて露ができ始める時期
	秋分	9月23～24日	昼と夜の長さが同じになる時期
	寒露	10月8～9日	露が冷気によって凍りそうになる時期
	霜降	10月23～24日	秋が深まり霜が降りる時期
冬	立冬	11月7～8日	冬の気配が漂う時期
	小雪	11月22～23日	雪が少しずつ降り始める時期
	大雪	12月7～8日	大雪が降り出す時期
	冬至	12月22～23日	夜が最も長くなる時期
	小寒	1月6～7日	寒さが厳しくなる時期
	大寒	1月20～21日	寒さが最も厳しくなる時期

この(表1)の24節気は、中国の周代、華北地方の気象に合わせて付けられた名称と言われる。24の数字は、太陽の運動に基づいており、春分点から太陽が動くルート(Route)を東側に15°間隔で分けて定めた24時点である。

24節気は、農業に関わる季節の推移や特徴を示しており、前近代の日韓の農業社会では広く知られていた。種蒔きや収穫など農業に関わる一連の節気が連なり、農業の重要な道しるべの役割を果たした。これによって、農繁期の種まきから収穫、ひいては農閑期に至る季節の流れに備えていた⁽⁷⁾。特に韓国では、夏のもっとも暑い日として三伏、つまり初伏・中伏・末伏がよく知られている。初伏は夏至から3番目の「庚日」、4番目の「庚日」は中伏、そして立秋から最初の「庚日」は末伏という。前近代の韓国では、暑さを避けて食物をもち溪谷に行き一日を休んだりしたが、今日でもこの三伏という行事の習慣は残っているのである⁽⁸⁾。

ところで、今日の日韓では季節に関係のない温室栽培の農産物、つまり季節とは無縁の農産物が出回る。消費者の収穫物に対する季節の感覚も鈍くなり、生産者の24節気に基づいて農業を営むという感覚も乱れている。したがって、生産者や消費者はともに24節気的重要性を身近に感じなくなってきていると言えよう。

次の(表2)は、前近代の日韓における24節気の間に行われていた行事である。前近代では奇数が重なる日を重視していた。

(表2) 前近代の日韓における奇数が重なる日

日本	月付	韓国
正月・元旦	1月1日	スルナル(설날)・元旦・元日・歳首・慎日
ひな祭り	3月3日	サムジンナル(삼짇날)
端午	5月5日	端午・天中節・戌衣
七夕	7月7日	七夕
重陽	9月9日	重陽節

*元来は旧暦(陰暦)であるが、日本では近代国民国家成立期を経て陽暦に移し替えている⁽⁹⁾。

(表2)の「ひな祭り」・「端午」・「七夕」は、日本では一般的に節供と言われる⁽¹⁰⁾。

これらの諸行事に関して、少し触れておくことにする。1月1日は、春を迎えて、これから新しい1年の農業を考える上で重要な日である。ちなみに、中国では「春節」と言われる。この日、現在の日本では先祖祭りは行わないが、韓国では未だに先祖祭りをやっている。韓国では先祖に供え物をして「祭祀」を行い、春の到来を祝うのである。この行事の内容には、春を迎えるという晴れのイメージがあり、周期性のある祝い事の「anniversary」の雰囲気漂う。その一方で先祖祭祀の「memorial」(追悼の)という暗いイメージが加わっている日とも言える。

3月3日は、日本では女兒の成長を祝う「ひな祭り」を行う。一方、前近代の韓国では本格的な春の到来を喜び、「ジンダルレ (진달래)」(山ツツジ)の花を取ってきて花煎を焼いて食べたりした。今日、日本では「ひな祭り」を行っているが、韓国では花煎を焼いて食べる風習はほとんどない。

5月5日は、前近代の日韓において「端午」と呼ばれて盛大に祝われ、菖蒲で頭を洗ったりするなど様々な催しが行われた。ことに、韓国では端午を秋夕より重視していた地域もあった⁽¹¹⁾。

7月7日は、牽牛と織姫が天の川を渡って年に1度だけ再会するという伝説があり、この日に日韓では若者が笹に願いごとを飾れば叶うと言われ、親しまれている。

9月9日は、奇数が極である9が重なるめでたい日である。前近代の日韓では、菊の花で作った酒を飲んだりした。ことに、韓国では菊の花びらで花煎を焼いて食べる風習があった。

さらに、前近代の日韓では月が満ちる日である、以下の(表3)の満月日に様々な催しが行われた。

(表3) 前近代の満月日の行事

日本	時期 (陰暦)	韓国
小正月	1月15日	正月大ボルム (대보름)
-	6月15日	流頭
中元・盆	7月15日	百仲節・百種日・亡魂日
盆・中元	8月15日	秋夕・仲秋節・嘉排・ハンガウイ (한가위)・ガウイ (가위)
-	10月15日	時祭

(表3) について言及をすると、「小正月」(1月15日)は、春(1月1日)を迎えた、その月の最初に訪れる満月の日である。日本では「小正月」といい、子供・青年・厄年の人が家々をめぐり歩いて新年の祝福を与えて餅などをもらった。さらに、病気や厄災を払ったりする行事も行った。一方、韓国では、『東国歳時記』によると「正月大ボルム (대보름)」の朝に耳が良く聞こえるよう「耳明酒」を飲んだり、出来物ができないよう堅い菓子を嚙んだりした。夜は、松明をもって隣の集落と戦ったりもしたとされる⁽¹²⁾。

「流頭」(6月15日)には、韓国では「東流頭沐浴」、つまり東に流れる川に行って髪の毛を洗い、沐浴をしたりした⁽¹³⁾。そして、日本の「中元」(7月15日)には「盂蘭盆会」を開き、死者を供養したが、中元は盆と同義で用いられていた。韓国では「百仲」といい、亡くなった親の祭祀を行ったが、新羅・高麗時代の「盂蘭盆会」から由来していると言われる⁽¹⁴⁾。

8月15日に日本では、7月15日と同様、盆の行事を行い、祖霊を迎えて祀ったりした。

つまり、前近代の盆は、7月15日に行う地域と、8月15日に行う地域に別れていた。今日は、一般的に陽暦の8月15日が盆であり、祖霊を祀るよりは墓参りを行う程度である。韓国では「秋夕・仲秋節・嘉排・ハンガウイ (한가위)・ガウイ (가위)」といい、五穀豊穡を祈って祖先に祭祀を行った。その伝統は今日も変わらず、1月1日のスルナル (설날) とともに最大の「名節」の1つである。ちなみに、西洋の「感謝祭 (Thanks Giving Day)」に近いと言えよう。

10月15日は、前近代の韓国では「時祭」を行った。忌祭祀は、5代上までの祖先を祀るが、これより上に当たる祖先に対して祭祀を行う日である⁽¹⁵⁾。

(表4) 今日の日韓の年中行事

名称 (日本)	月付	名称 (韓国)
七草	1月7日	-
節分	2月3・4日	-
彼岸	3月18・25日 / 9月20・27日	-
-	4月5～6日	寒食
-	4月8日 (陰暦)	四月初八日 (사일 초파일)・燃燈節
土用	7月20・21日～8月8・9日	-
大晦日	12月31日	ソツタルグムンナル (설날 그믐날)

前近代における(表1)～(表3)以外の行事を示した(表4)についても説明を行う。日本の七草(1月7日)は、7種類の野菜を入れた七草粥を食べたりして、正月の食べ物で疲れた胃を癒す日である。節分は、本来は季節の移り変わる時の意味で、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指すが、今日は立春の前日(2月3～4日頃)のみを意味する。代表的な行事は豆撒きである。彼岸は、春分・秋分を中心に各々前後3日ずつの7日間である。つまり、3月18～25日や9月20～27日頃である。この期間中、一般的に団子や餅を作ったり、寺参りや墓参りをしたりする。土用は、立春・立夏・立秋・立冬の各季の前の18日間を意味するが、今日は一般的に立秋前の夏(7月20～21日から8月8～9日まで)、つまり夏の一番暑い時期を指す。前近代の韓国の三伏と類似する日である。ことに日本では「丑の日」にウナギを食べると夏負けしないとされる。これらの節分・彼岸・土用は(表1)の24節気と深く関わっている。日本の大晦日は、陽暦12月31日としているが、年越しそばを食べたり、終夜眠らずに過ごしたりして新年を迎える。

一方、韓国の寒食は、冬至(12月22～23日)から105日目の陽暦4月5～6日頃になるが、中国から伝わってきたものである。春秋時代の晋の忠臣である介子推は、奸臣に追われて綿山に潜んでいた。文公は彼の忠誠に気づいて登用しようと考え下山しよう命じたが、応じなかったため綿山に火を放った。しかし、介子推は下山せず焼死してしまう。そこ

で彼を慕う意味で、この日だけは竈に火を入れず、冷たい食べ物を食べたというのが、寒食の始まりであるが、韓国では寒食の際に墓参りをする⁽¹⁶⁾。

四月初八日(사월 초파일)は、釈迦の誕生日に因んでおり、新羅時代以来、燃燈行列を行った。そして、韓国のソツタルグムンナル(선달 그믐날)は、陰暦の12月30日である。日本と同じく終夜眠らずに過ごして新年を迎えた。

次の(表5)に示したものは、前近代の日韓社会において祝われた、個人レベルの誕生日祝いの一覧である。

(表5) 日韓の人生節目の誕生日

年齢	誕生日の名称
60歳	還暦(日) / 還甲・回甲(韓)
70歳	古稀・稀寿
77歳	喜寿
80歳	傘寿
88歳	米寿
90歳	卒寿
99歳	白寿

誕生日は、毎年、回ってくる周期性のもので「記念日」と言えるが、(表5)の節目の誕生日は一過性と見なすこともできる。しかし、たとえこの名称自体に一過性の意味合いがあっても、誕生日という毎年回ってくる周期の延長上で考えると、「記念日」と見なせると考える。平均寿命が短かった前近代には、60歳を越して生きるのは難しい時代であったため、60歳以上の誕生日は慶んで祝う記念の意味合いが強かった。

日韓の人々の平均寿命が飛躍的に伸びている今日では、人生節目の60歳である還暦も、特別に祝うほどの誕生日ではなくなっている傾向にある⁽¹⁷⁾。これに対して、前近代の韓国では、61歳を「進甲」といい、特に祝っていた。人が生まれた時の干支は、61歳になると再び生まれた時の同じ干支に戻るため「進甲」とする。つまり、10干(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)と12支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)を組み合わせた干支は、61歳には同じ干支に戻るからである。

逆に、幼い時の誕生日の祝いも行っていた。前近代から今日に至るまで日本では、生まれて30日になると「お宮参り」を行ったりする。一方、同じく韓国でも生まれて100日に「100日ジャンチ(백일잔치)」(100日宴)を行う。これらは周期性がないため、誕生日と同じ意味合いとしては考えられない。1歳になる前のこれらの催しは、一過性であるため、「記念日」とは言い難い。

韓国では、一般的に1歳には「ドルジャンチ(돌잔치)」(1歳宴)を設けるが、日本では1歳の宴は行わず、3・5・7歳の際、それぞれ「七・五・三」の祝いをする。ちなみに、

前近代の日韓社会では冠礼を行っていたが、今日の成人式のように、必ず20歳で行ったわけではない。冠例は結婚をする前に行う儀式であるため、早婚の風俗があった時代は20歳になる前に行った⁽¹⁸⁾。

以上、前近代における日韓の諸行事の(表1)～(表5)は、農業や個々人の人生の節目に関わる社会の習俗である。特に(表5)を除く諸行事は、前近代の農耕社会における農業と深く関わる行事であり、国家という権力が表に出ない、社会レベル(Level)の行事である。つまり、農業と深く関わる社会の習俗として定着してきたことを物語っており、これは前近代の日韓における諸行事の特徴でもある。

ところで、(表1)～(表5)のいずれの日も晴れのイメージに周期性があり、定義してきた今日の「記念日」に類似している。したがって、「記念日」と言うことができるが、一般的には「記念日」とせず、年中行事(韓国では歳時風俗という)と言う。この諸行事の中で一部は、すでに言及してきたように、前近代の伝統を受け継ぎながら、さらに今日にも執り行われている行事がある。

第2章 近代国民国家成立以降における日韓の「記念日」

(1) 日韓の政府や省庁レベルの「記念日」

a. 日本

日本の政府や省庁が制定する「記念日」の背景には、どんな意味合いがあるのか、その内容を中心に考察する。日本の政府や各省庁レベルで定めている「記念日」に該当するものをまとめたのが、以下の(表6)である。

(表6) 日本政府や各省庁制定の記念日

記念日	日付	制定根拠	備考
文化財防火デー	1月26日	消防庁・文化庁	
建国記念の日	2月11日	法律	国民の祝日
消防記念日	3月7日	消防庁	
郵政記念日	4月20日	総務省	
憲法記念日	5月3日	法律	国民の祝日
防災の日	9月1日	閣議了解	

日本では、政府が法律で規定している「国民の祝日」⁽¹⁹⁾の中で「建国記念の日」(2月11日)や「憲法記念日」(5月3日)は「記念日」という名称を付けている。

次に、省庁レベルで制定されたもののうち「文化財防火デー」は「記念日」という名称は付けられていないが、「記念日」に準ずる行事である。1949年1月26日、奈良法隆寺金

堂の日本最古の壁画が漏電火災によって焼失したのを契機に、1955年に文化庁と消防庁が文化財愛護思想の普及高揚を目的に「文化財防火デー」（消防庁・文化庁）を制定した。また同じく「記念日」の名称が付けられていないものとして、1960年6月17日に制定された閣議了解事項の「防災の日」（9月1日）が挙げられる。1923年9月1日に発生した関東大震災に因んだ日である。今や総理大臣が先頭に立って防災訓練を行ったり、視察したりするのが恒例の行事になっている。

各省庁レベルの制定で「記念日」の名称が付けられているものとしては、3月7日の「消防記念日」（消防庁制定）、4月20日の「郵政記念日」（総務省制定）が取り上げられる。前者は、明治憲法下では警察の管轄であった消防業務が、1948年3月7日、「消防組織法」で消防庁が担うことになったことから生まれたものである。これを記念して消防庁が1950年に制定したのが「消防記念日」である。後者は、明治4（1871）年4月20日、前近代の飛脚制度に代わり、近代的郵便制度を実施したのを記念して制定した日である。1934年に「通信記念日」（通信省）に改められたが、通信省が1949年6月1日に郵政省と電気通信省に分割されてしまう。このため「通信記念日」は郵政省に引き継がれて、1950年「郵政記念日」となったが、1959年に郵政省が通信省になったため、再び「通信記念日」となった。しかし、2001年に中央省庁再編に伴って郵政事業庁が設置され、また再び「郵政記念日」となったのである。

自治体の代表的な「記念日」としては、東京都交通局が制定している1月18日の「都バス記念日」が取り上げられる。これは1942年1月18日、東京市営の乗合バス（Bus）が営業を開始したことで制定された「記念日」である。自治体や個別の諸団体が定めている「記念日」、つまり地方自治体が商業を促進するため定めている日、「創立記念日」、「開業記念日」、「開校記念日」など数多くの「記念日」が存在するが、社会的認知度が低いため、省略する。

このほかに、毎年総理大臣までが式典に出席しており、政府レベルの記念行事と言って過言ではない、「広島平和記念日」（8月6日）・「長崎平和記念日」（8月9日）がある⁽²⁰⁾。制定の主体が必ずしも明確とは言えないが、「記念日」という名称が付けられている。正式には、前者は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」（または広島平和記念式典）、後者は「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」である。

一般的に「広島平和記念日」・「長崎平和記念日」と言われる「記念日」をもつ広島や長崎の過去には、まず悲惨な記憶が強く思い浮かぶ。その「記念日」の内容にも追悼に近いものがある。その意味で「記念日」というネーミング（Naming）は、本稿で定義してきた「記念日」のイメージには相応しくない。しかし、原爆投下で多くの人々が犠牲になった悲惨な出来事を踏えて、平和を祈念するという意味合いを込めて平和記念日としている。悲しい日を、晴れの明るいイメージの「記念日」にするのは、国民統合の狙いが働いていると言える。悲惨な事実ではあったが、これを乗り越えて毎年、世界に平和を訴える、発信するという未来指向的な明るいイメージを前面に出しているのである。

b. 韓国

韓国政府レベルの「記念日」は『大統領令』で制定しており、1973年3月30日に制定した「各種記念日などに関する規定(각종 기념일등에 관한 규정)」⁽²¹⁾以来、2013年6月17日の改定⁽²²⁾まで25回の改定を重ねつつ、今日に至っている。『大統領令』で制定している現在の「記念日」を網羅して提示すると、(表7)の通りである。

(表7) 韓国の大統領令で制定している「記念日」(2013年現在)

番号	記念日の名称	日付	主管部署
①	納税者の日 (납세자의 날)	3月3日	企画財政部
②	3・15義挙記念日	3月15日	国家報勲処
③	商工の日 (상공의 날)	3月第3週水曜日	産業通商資源部
④	郷土予備軍の日 (향토예비군의 날)	4月第1週金曜日	国防部
⑤	植木日	4月5日	農林畜産食品部
⑥	保健の日 (보건의 날)	4月7日	保健福祉部
⑦	大韓民国臨時政府樹立記念日	4月13日	国家報勲処
⑧	4・19革命記念日	4月19日	国家報勲処
⑨	障碍人の日 (장애인의 날)	4月20日	保健福祉部
⑩	科学の日 (과학의 날)	4月21日	未来創造科学部
⑪	情報通信の日 (정보통신의 날)	4月22日	放送通信委員会/ 未来創造科学部
⑫	法の日 (법의 날)	4月25日	法務部
⑬	忠武公李舜臣誕辰日	4月28日	文化体育観光部
⑭	勤労者の日 (근로자의 날)	5月1日	雇用労働部
⑮	子供の日 (어린이의 날)	5月5日	保健福祉部
⑯	両親の日 (어버이의 날)	5月8日	保健福祉部
⑰	師匠の日 (스승의 날)	5月15日	教育部
⑱	5・18民主化運動記念日	5月18日	国家報勲処
⑲	夫婦の日 (부부의 날)	5月21日	女性家族部
⑳	成年の日 (성년의 날)	5月第3週月曜日	女性家族部
㉑	海の日 (바다의 날)	5月31日	海洋水産部
㉒	義兵の日 (의병의 날)	6月1日	安全行政部
㉓	環境の日 (환경의 날)	6月5日	環境部
㉔	顕忠日	6月6日	国家報勲処
㉕	6・10民主抗争記念日	6月10日	安全行政部
㉖	6・25戦争日	6月25日	国家報勲処
㉗	情報保護の日 (정보 보호의 날)	7月第2週水曜日	未来創造科学部/ 安全行政部/ 国家情報院
㉘	鉄道の日 (철도의 날)	8月18日	国土交通部

②⑨	国軍の日 (국군의 날)	10月1日	国防部
③⑩	老人の日 (노인의 날)	10月2日	保健福祉部
③⑪	世界韓人の日 (세계한인의 날)	10月5日	外交部
③⑫	在郷軍人の日 (재향군인의 날)	10月8日	国家報勲処
③⑬	体育の日 (체육의 날)	10月15日	文化体育觀光部
③⑭	文化の日 (문화의 날)	10月第3週土曜日	文化体育觀光部
③⑮	警察の日 (경찰의 날)	10月21日	安全行政部
③⑯	国際聯合日	10月24日	外交部
③⑰	矯正の日 (교정의 날)	10月28日	法務部／安全行政部
③⑱	地方自治の日 (지방자치의 날)	10月29日	安全行政部
③⑲	貯蓄の日 (저축의 날)	10月最終週火曜日	金融委員会
④⑩	学生独立運動記念日	11月3日	教育部
④⑪	農業人の日 (농업인의 날)	11月11日	農林畜産食品部
④⑫	殉国先烈の日 (순국선열의 날)	11月17日	国家報勲処
④⑬	貿易の日 (무역의 날)	12月5日	産業通商資源部
④⑭	消費者の日 (소비자의 날)	12月3日	公正去来委員会
④⑮	原子力安全及び振興の日 (원자력 안전 및 진흥의 날)	12月27日	未来創造科学部／産業通商資源部

*2013年6月17日「各種記念日などに関する規定 (각종 기념일등에 관한 규정)」(『大統領令』第24609号、韓国)による。

(表7)の中で⑭「子供の日 (어린이날)」(5月5日)と⑳「顕忠日」(6月6日)は、『大統領令』で制定している「公休日」⁽²³⁾であると同時に「記念日」でもある⁽²⁴⁾。

ところで、(表7)は『大統領令』で定めている「記念日」であるが、その中で「記念日」という名称を付けているのは、②・⑦・⑧・⑱・㉕・④⑩だけである。しかし、名称に拘らず、すべてが「記念日」である。以下では、制定の背景が理解しにくい「記念日」に限って説明を加えることにする。

②「3・15義挙記念日」(3月15日)には、次のような背景がある。1960年3月15日、大統領・副大統領を選出する選挙が行われたが、政権与党の自由党による不正選挙であった。そこで、市民や学生が抗議デモを行い、警察の発砲で死傷者が出たが、学生の死を隠蔽していたのである。学生の死が暴かれたことが導火線となって、翌年の4・19革命(⑧「4・19革命記念日」)に繋がっていった。

④「郷土予備軍の日 (향토예비군의 날)」(4月第1週金曜日)は、兵役義務を果たした退役軍人(予備軍)が郷土の防衛をする目的で、1968年4月1日、郷土予備軍を結成したことに因んでいる。その結成は1968年1月21日、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の武装グループ(Group)が大統領官邸の青瓦台を襲撃しようとしたのが契機である。北朝鮮の企みは失敗に終わっており、韓国は1968年からこの日を「記念日」として定めている。

⑦ 「大韓民国臨時政府樹立記念日」(4月13日)は、1919年4月13日、大韓民国臨時政府が日本の植民地支配に抵抗して、上海で発足した日である。臨時政府は韓国内外の諸課題を統治し、また抗日闘争の継続に当たった。

⑧ 「4・19革命記念日」(4月19日)は、1960年3月15日の選挙で当時の李承晩大統領の与党である自由党が不正選挙を行った。先述のごとく抗議デモに参加して行方不明となっていた学生が警察の発砲で死亡したことが明らかになり、学生が中心となって、闘争を繰り広げた。この結果、大統領を辞任にまで追い込んだ日である。

⑬ 「忠武公李舜臣誕辰日」(4月28日)は、文禄・慶長の役(韓国では壬辰・丁酉倭乱とする)の際、秀吉軍に対して海戦で多大な戦果を挙げた李舜臣の誕生日である。

⑱ 「5・18民主化運動記念日」(5月18日)は、1980年5月18日から27日にかけて韓国の全羅南道の道庁所在地である光州市で、民主化を求める活動家とそれを支持する学生や市民が韓国軍と衝突し、多数の死傷者を出した日である。

⑳ 「義兵の日(의병의 날)」(6月1日)であるが、義兵とは古来、韓国が外敵の侵略が多く侵略された際、自発的に民衆が自衛の軍を組織して闘争を繰り広げており、そうした民衆自衛の戦いに参加した人々を意味する。代表的な義兵闘争には、文禄・慶長の役(1592~1598)や日清戦争に勝利した日本が朝鮮に改革を推し進める中、朝鮮の明成皇后(1851~1895)を殺害した乙巳事変(1895)、その後、日韓併合(1910)に至るまでの一連の過程において、日本に抵抗したことが挙げられる。義兵の日は、これらの抵抗における義兵を讃えるために定められた日である。

㉔ 「顕忠日」(6月6日)は、国土防衛のため、戦死したり殉職した将兵や軍関係者の魂を労うための「記念日」であるが、「公休日」でもある。

㉕ 「6・10民主抗争記念日」(6月10日)は、1987年6月、全国で繰り広げられた民主化運動に基づいている。これによって国民の直接投票による大統領選挙が行われるようになったことから2007年より、この日を「記念日」と定めている。

㉖ 「6・25戦争日」(6月25日)のいう「戦争」とは、1950年6月25日、北朝鮮が旧ソ連の支援をうけ、韓国を奇襲攻撃したことで勃発した韓国戦争である。日本では「朝鮮戦争」と言われるが、この韓国戦争が勃発した日である。

㉞ 「国際聯合日」(10月24日)は、1945年10月24日、国際聯合(United Nations)が創設された日である。

㉟ 「学生独立運動記念日」(11月3日)は、1929年11月3日、韓国の光州で日本の植民地支配に抵抗して学生が起こした反日運動の日である。1953年から記念の催しは行われていたが、この名称で「記念日」に制定されたのは2006年である。

㊱ 「殉国先烈の日(순국선열의 날)」(11月17日)とは、1939年11月21日、大韓民国臨時政府が制定したもので、1905年11月17日、大韓帝国が第2次日韓条約(韓国では乙巳条約という)を結んで事実上の植民地状態になったことに基づくものである。この殉国先烈とは、日本帝国主義に奪われた国権を取り戻すため、抵抗して命を落とした人々を意味す

る。1945年の解放後、行事は民間団体や国家報勲処が行ってきたが、1997年5月9日、「記念日」に定められた。

この(表7)の「記念日」のほとんどは「公休日」ではないため、一般的にはあまり関心を持たれない傾向が強い。「公休日」ではない「記念日」は、たとえ政府レベルの制定であっても社会的認知度は低い。

ところで、韓国政府の制定している「記念日」にも日本と同じような傾向や意図がかいま見える。つまり、悲惨な負の記憶を、明るいイメージとしての「記念日」にしている。例えば、㉔「顕忠日」(6月6日)や㉖「6・25戦争日」(6月25日)が取り上げられよう。前者は殉職した将兵や軍関係者の魂を労う日なので「memorial」(追悼行事)に近く、後者は同じ民族間の悲惨な戦争なので明るいイメージの「記念日」としては相応しくない側面が強い。しかし、未来志向的に明るい側面を強調し、国民統合の意味合いも込めての「記念日」であると言えよう。

これに対して、日本では法律で制定する「記念日」は少なく、閣議決定や条例の数もそう多くない。反面、韓国は政府主導の『大統領令』でもって積極的に数多くの「記念日」を制定している。その「記念日」の数は、(表7)で見ると45個にも上る。つまり、日本では国家的「記念日」が少ない代わりに、天皇制という求心点でもって国家的イデオロギー(Ideology)を形成して伝えているのに対して、韓国は「記念日」を通して国家的イデオロギーを形成し伝達する意味合いが強いと言えよう。

ところで、日韓の政府や省庁が制定している「記念日」は、既に定義してきた「明るい晴れのイメージ」、周期性、そして祝うという意味合いとはかけ離れている「記念日」も多い。それは背景に「記念日」をめぐる恣意的な解釈や意図が介在しているからである。悲劇的かつ喜劇的な両面性のある出来事をもって明るく晴れのイメージをとる、都合のいい理由付けをして国民統合を図る狙いが強く働いている。この日韓の傾向は、アメリカ(America)の「Independence Day」(7月4日)の解釈にも如実に表れている。日韓では「独立記念日」と称しているが、アメリカ自身は「Independence Day」としている。語彙から「記念日」という意味合いは感じられず、またその意味も含まれていない。語彙だけに着目して「Independence Day」を和訳・韓国訳すると、「独立日」なのである。日韓では、独立前の辛い過去よりは、独立してからの嬉しさに重点をおく、恣意的な「記念日」に仕立てているのである。

(2) 日韓社会における「企業や業界組合」制定の「記念日」

社会の「記念日」と個人とは、いかなる関係にあり、どんな意味合いがあるのか、その背景を中心に考察する。

日韓社会に広く認知されている「記念日」は、4つの制定主体、つまり政府や省庁レベル、社会の個別の諸団体、「企業や業界組合」、そして個人レベルであると言ってきた。しかし、社会に広まっている「記念日」の中では外国で成立したものが伝わったケース(Case)

もあるが、その根源をたどれば、結局は「企業や業界組合」制定のものである。個人レベル制定の「記念日」が社会に受け入れられているケースはほとんどなく、「企業や業界組合」が定めている「記念日」に、個人レベルの「記念日」が密着して連動している。例えば、結婚して25年を迎えた夫婦の結婚記念日を「銀婚式」といい、夫が妻にプレゼント(Present)をしたり、一緒に海外旅行に出かけたりするのが、それを物語る。一般的に日韓では、結婚25年を祝う「銀婚式」という「記念日」が広く知られており、個々人の祝い事に繋がっている。

したがって、結局は政府レベルと「企業や業界組合」制定の2つのタイプ(Type)に尽きる。すでに断ってきたように、自治体や社会の諸団体が定めている「記念日」は、社会の人々に広く知られていないため取り上げないことにする。

人々は社会の「記念日」の流行りに刺激されて「記念日」を認識することが多い。社会の「記念日」の中で代表的なのは、人生儀礼(通過儀礼)の中で、主に誕生日、恋愛に関わる日、結婚日を取りあげられよう。死に伴う「法事(祭祀)」も周期性だけの観点から考えると、記念をする日であるのは間違いない。しかし、既に定義してきたように「記念日」のもつ「嬉しく明るい晴れ」のイメージに照らしてみると、法事は「記念日」の範疇に入れられない。政府レベルの「記念日」の恣意性、つまり悲しいことであっても明るく晴れの側面を浮き彫りにしていることに倣っても「記念日」とは言いにくい。

以下は、近代国民国家成立以降、欧米で流行っていた「記念日」が日韓に伝わったものである。社会の「記念日」として広がっているため、これらについては取りあげることにする。

(表8) 結婚記念日の名称

周年	名称		
	日本	韓国	欧米
1周年	紙婚式	紙婚式	Paper
2周年	綿婚式・藁婚式	綿婚式	Cotton
3周年	革婚式・草婚式	革婚式	Leather
4周年	花婚式・書籍婚式	花婚式	Linen, silk/Fruit and flowers
5周年	木婚式	木婚式	Wood
6周年	鉄婚式	糖果婚式	Iron/Sugar
7周年	銅婚式	銅婚式	Copper
8周年	青銅婚式	青銅婚式	Bronze
9周年	陶器婚式	陶器婚式	Pottery/Willow, Pottery
10周年	錫婚式・アルミ婚式	朱錫婚式	Tin, Aluminum/Tin
11周年	鋼鉄婚式	鉄婚式	Steel
12周年	絹婚式	明紬婚式	Silk/Silk and fine linen
13周年	レース婚式	繡婚式	Lace

14周年	象牙婚式	象牙婚式	Ivory
15周年	水晶婚式	水晶婚式	Crystal
20周年	磁器婚式	陶磁器婚式	China
25周年	銀婚式	銀婚式	Silver
30周年	真珠婚式	真珠婚式	Pearl
35周年	珊瑚婚式	珊瑚婚式	Coral, jade/Coral
40周年	ルビー婚式	緑玉婚式	Ruby
45周年	サファイヤ婚式	紅玉婚式	Sapphire
50周年	金婚式	金婚式	Gold
55周年	エメラルド婚式	翡翠婚式	Emerald
60周年	ダイヤモンド婚式	金剛婚式・回婚式	Diamonds
65周年	—	—	Blue Sapphire
70周年	プラチナ婚式	—	Platinum
75周年	—	—	Diamond & Gold
80周年	—	—	Oak
85周年	—	—	Wine

* 『デジタル大辞泉』（小学館、2013年）による。

（表8）の結婚記念日は、明治27（1894）年、明治天皇が銀婚式の祝いをしたのをきっかけに、一般人の間でも結婚記念日を祝う習慣が広がって行くことになった。一般的に、これら全ての「記念日」を覚えたり、記念したりする人は少なく、「銀婚式」・「金婚式」・「ダイヤモンド（Diamond）婚式」などが一番広く知られ、祝われる傾向にあると言える。次は、誕生日に因んだ、その月の誕生石（Birthstone）である。

（表9）誕生石（Birthstone）＜1912年、アメリカ宝石同業組合制定＞

月	宝石名
1月	ガーネット（Garnet）
2月	アメシスト（Amethyst）
3月	アクアマリン（Aquamarine）・ブラッドストーン（Blood Stone）
4月	ダイヤモンド（Diamonds）
5月	エメラルド（Emerald）
6月	パール（Pearl）・ムーンストーン（Moon Stone）
7月	ルビー（Ruby）
8月	サードニックス（Sardonyx）・ペリドット（Peridot）
9月	サファイア（Sapphire）
10月	オパール（Opal）・トルマリン（Tourmaline）
11月	トパーズ（Topaz）
12月	ターコイズ（Turquoise）・ラピスラズリ（Lapis Lazuli）

* 『デジタル大辞泉』（小学館、2013年）による。

(表9)の誕生石(Birthstone)は、1912年、アメリカで制定された「記念日」である。日本社会に伝わって広がっているが、その伝来時期は不明である。誕生日と深く関わっており、アメリカの宝石同業組合という業界組合が商品販売の目的で制定して日韓社会にまで広がったものである。特に、女性を中心に自分の誕生した月の宝石を身につけている人が多い。生まれた月に買う、1回切りということも考えられるが、毎年、同じ月の誕生石に合わせて指輪・ネックレス(Necklace)・イヤリング(Earring)を順番に揃えたりする人もいる。ひいては、誕生日に他の月のものまでも購入する人も見かけられる。

他に日本では「5月23日」を「キスの日」としたが、社会的な認知度が低い。1946年、日本で初めてキスシーン(Kiss scene)が登場する佐々木康監督の「はたちの青春」が封切られた日とされる。また、1988年「全国額縁組合連合会」が「恋人の日」(6月12日)を制定したが、同じくあまり社会的関心が高まっていない。ブラジル(Brazil)では縁結びの聖人として崇められているアントニオ(Antonio)の命日の前日である6月12日を「恋人の日」と定めて恋人同士がフォトフレーム(Photo Frame)を贈り合う習慣があり、これを日本に取り入れたのである。「キスの日」や「恋人の日」は、日本社会に広く認知されず、定着までには至っていない代表的なケースと言える。

その後の1958年頃、ヨーロッパ(Europe)の風俗がイベント(Event)化した2月14日の「バレンタインデー」(Valentine's Day)が日本社会に伝わった⁽²⁵⁾。今日では愛の表現として女性から男性にチョコレート(Chocolate)を贈る日という意味合いで定着している。3月14日の「ホワイトデー」(White Day)は、1977年、福岡県のある菓子店の発案で作られたと言われるが、愛情返しという意味である⁽²⁶⁾。いわば、3月14日は2月14日に因む、日本が独自に派生させた「記念日」である。ここでも菓子販売の狙いが込められていると考えられる。

他方、韓国における(表8)や(表9)の「記念日」は、近代化を進めて韓国を植民地支配していた日本を経由して韓国に伝わった。1945年、日本から独立を果たしてからも経済成長の著しい日本の影響が韓国に及んでいた。例えば、1950年代に欧米から日本に取り入れられていた2月14日のバレンタインデーや、日本が独自に作った3月14日のホワイトデーは、1970年代に日本から韓国に伝わった。韓国での2月14日は、「女性が好きな男性にチョコレートをプレゼントして愛を告白する日」という意味合いが強い。一方、3月14日は、「男性が好きな女性にチョコレートをプレゼントして愛を告白する日」という傾向にある。いずれも未婚の若い男女を中心に流行っており、日本のような「義理チョコ」、つまり既婚の男女に義理人情で渡すことはあまりない。

ところで前近代と、その後の時代とでは用語の使われ方に差が見られる。つまり、前近代の「記念日」に当てはまるような諸行事は年中行事(歳時風俗)、または節供(名節)とする。近代国民国家成立期を境に「記念日」という名称を用いており、その意味で「記念日」という用語や、「記念日」に関する意識は近代国民国家成立期を区切りに登場してきたと考えられる。

このように、近代国民国家成立以降は日韓の政府や省庁が主導する「記念日」が制定され、ことに韓国では『大統領令』で数多くの「記念日」が定められてきた。一方、日本では欧米、あるいは企業の戦略に基づく「記念日」が、それなりに社会に定着している。そして、欧米より日本に取り入れられた「記念日」や日本独自の「記念日」は、韓国にも伝わり、日本社会とはほぼ同じ「記念日」が韓国社会でも流行している。

要するに、近代国民国家成立以降の国家や省庁レベル制定の「記念日」には、恣意的な側面が強い。そして、誕生石や結婚記念日、バレンタインデーなどは、西洋の影響で日本社会に取り入れられたが、さらに韓国社会にも伝わって行くことになった。社会に広く認知されているこれら政府レベル以外の「記念日」制定の根源には、「企業や業界組合」が商品販売の狙いで作り出してきたという側面が強い。

第3章 グローバル化時代における日韓の「記念日」

(1) グローバル化時代の「記念日」の特徴

グローバル化時代が到来して、以前の時代とは社会環境が異なり、日韓社会にも様々なところに大きな変化が訪れる。この変化をもたらしたのは、自由に国境を超えて人々が移動して交流し、たやすく多くの情報に接することができる時代の到来であったと言えよう。人々の移動による直接の情報入手に加えて、インターネット（Internet）による情報の入手は、人々の意識を大きく変化させて社会が多様化し、従来とは異なる変革が起きている。特に、情報通信技術の変革による情報入手の利便さは、諸外国のイベントを真似たり、取り入れたりすることを激化させている。

このような時代の動向に伴い、日韓社会の「記念日」にも大きく変動が起きている。グローバル化時代になると、日本では政府や省庁制定の「記念日」がほぼ新設されない状況である。しかし、韓国ではグローバル化時代以前よりは小康状態になってきているものの、「記念日」を作り続けている。一方、グローバル化時代には社会、つまり「企業や業界組合」が主役となって、活発に「記念日」を制定し、365日を「記念日」にする動きを見せる。例えば、日本の『366日記念日事典』⁽²⁷⁾や『記念日・祝日の事典』⁽²⁸⁾などがその傾向を物語る。韓国でもインターネット上で日本と同じような動向が確認される。つまり、365日のすべては、日韓それぞれの社会の「記念日」であるという発想である。

このグローバル化時代に「企業や業界組合」が制定している日韓社会の365日の「記念日」は、社会に高い認知度で広まっているかは兎も角、概ね次のように分けられよう。一つ目は、日本の「1月5日」の「囲碁の日」、韓国の「6月9日」の「肉牛デー（육우 데이）」（肉牛の日）のように語呂合わせの日である。韓国の「6月9日」は、国産牛肉をたくさん食べる日の意味合いである⁽²⁹⁾。二つ目は形で決めている、日本の「11月11日」の「ポッキーデー」（Pocky Day）⁽³⁰⁾、そして韓国の「ペペロデー（빼빼로 데이）」である。両者の「ポッキー」と「ペペロ」（韓国菓子の一種類）は同じ棒状であるため付けた名称である⁽³¹⁾。

三つ目は、実際の出来事に基づいている日である。例えば、日本の「8月25日」の「インスタントラーメン発売の日」は1958年、世界で初めて日清食品がインスタントラーメンの「チキンラーメン」を販売した日である。また、韓国の「12月11日」は1981年、韓国のプロ野球が発足した創立記念日であるが、この日に「ゴールデングローブ (골덴 글러브) 賞」(Golden glove 賞) の授賞式を行う。四つ目は、すでに存在している「記念日」を拡大して制定した日であるが、日本の「3月14日」のホワイトデー、韓国の次の(表10)でみる毎月14日の中でバレンタインデーとホワイトデーを除く日である。日韓における2月14日以外の14日「記念日」の原点は、バレンタインデーなのである。五つ目は、音声を真似て決めている日として、日本の「8月8日」の「パチンコ供養の日」や韓国の「9月9日」の「グーグーデー (구구 데이)」(鶏肉の日) が取り上げられる。前者はパチンコを弾く「パチパチ」という音から、そして後者は鶏を呼び寄せる擬声からとってきて定めている。韓国では鶏卵・鶏肉を食べるという意味合いの日である。

これらの中でも語呂合わせで決めている日が一番多く、その基準は恣意的なこともある。というのは、インターネットでは「記念日」と称していても、記念日関連の書物には掲載しないこともあるからである。例えば、日本社会にそれなりに知られている「ポッキーデー」であるが、『記念日・祝日の事典』⁽³²⁾には「記念日」として掲載していない。

最近、若者を中心に出会って1ヶ月、100日、半年と言った節目の日を記念する人もいる。これらは晴れの明るいイメージは漂うが、周期性がないので「記念日」とは言えない。しかし、出会って1年、2年と言った周期に記念することもある。周期として名付けられて、社会に定着してくると、結婚記念日のように社会の認知度が高くなり、出会いに関する新たな「記念日」の誕生に繋がると考える。

要するに、グローバル化時代の日韓では、前近代の「年中行事 (歳時風俗)」の一部や人生節目の誕生日、近代国家成立以降に社会に広まっている結婚記念日や誕生石は相変わらず「記念日」としての役割を果たしている。さらに、グローバル化時代に「企業や業界組合」が制定している数多くの「記念日」が新たに認知度を高め、社会に通用される「記念日」として加わろうとするものが多く、今や「記念日」の戦国時代とも言える。

(2) グローバル化時代の日韓における社会の「記念日」

グローバル化時代に入って、日本では新たな社会の「記念日」が数多く作られてはいるが、その認知度が社会に広く定着しているものはほとんどない。しかし、韓国ではグローバル化時代以前の「バレンタインデー」(Valentine's Day) や「ホワイトデー」(White Day) に因む、毎月14日の「記念日」が社会に広く定着している。次の(表10)は毎月14日の「記念日」である。

(表10) 韓国の毎月14日の記念日

時期	名称:「カタカナ表記(ハングル表記)」「英語表記」	内容
1月14日	「ダイアリーデー(다이어리 데이)」「(Diary Day)」	1年間使う手帳を恋人にプレゼント(Present)する日
2月14日	「バレンタインデー(밸렌타인 데이)」「(Valentine's Day)」	女の人が好き男性にチョコレート(Chocolate)をプレゼントして愛を告白する日
3月14日	「ホワイトデー(화이트 데이)」「(White Day)」	男の人が好き女性にチョコレートをプレゼントして愛を告白する日
4月14日	「ブラックデー(블랙 데이)」「(Black Day)」	2月のバレンタインデーや3月のホワイトデーに何のプレゼントもなかった男女が黒い服を身にまとい黙々と「チャジャン麺(짜장면)」を食べる日
5月14日	「ローズデー(로즈 데이)」「(Rose Day)」	バラが満開する季節に恋人とバラが咲いたところを歩きながらデート(Date)する日
6月14日	「キスデー(키스 데이)」「(Kiss Day)」	男女が愛を告白して接吻をする日
7月14日	「シルバーデー(실버 데이)」「(Silver Day)」	人に恋人を紹介し、互いにシルバーのアクセサリー(Accessory)をプレゼントする日
8月14日	「グリーンデー(그린 데이)」「(Green Day)」	恋人同士が森林浴をしながら避暑をする日
9月14日	「フォトミュージックデー(포토 뮤직 데이)」「(Photo & Music Day)」	恋人同士が写真を撮って1枚ずつ分ち持つ日
10月14日	「ワインデー(와인 데이)」「(Wine Day)」	恋人とワインを飲みながら特別な時間を過ごす日
11月14日	「ムービーオレンジデー(무비 오렌지 데이)」「(Movie & Orange Day)」	恋人とともに映画を観ながらほんのりと甘いオレンジジュース(Orange Juice)を飲む日
12月14日	「ハグデー(허그 데이)」「(Hug Day)」	恋人同士が抱き合う日

* 『日刊スポーツ(스포츠)』(2008年2月14日、韓国)、そして『忠清日報』(2009年12月14日、韓国)を参考にして作成した。

(表10)の毎月14日の「記念日」におけるバレンタインデーやホワイトデーは、グローバル化時代以前からすでに日韓に流行っていた。ところで、韓国における他の14日の「記念日」は、バレンタインデーやホワイトデーから派生しているに間違いはない。もともと社

会に広く知られていた2月14日や3月14日を母体に、残りの10ヶ月の「記念日」にまで拡大・発展させたのである。

韓国の新聞『日刊スポーツ (스포츠)』や『忠清日報』⁽³³⁾によれば、上記の(表10)の「記念日」は、今や韓国の社会に広く知られて定着していると報じている。

その中でも面白い「記念日」は、4月14日の「ブラックデー (블랙 데이)」(Black Day)である。2月14日のバレンタインデーや3月14日のホワイトデーに何のプレゼントもされなかった男女が黒い服を身にまとって集まって、黙々と「チャジャン麺 (짜장면)」を食べる日であるとされる。黒い服は喪服の意味合いが強く、黙々と食べるというのは暗い雰囲気を漂わせる。さらに「チャジャン麺」(ジャジャ麺)は、そもそもは中華料理であるが、韓国料理化されて手軽に食べられる。甜麺醬とタマネギを合わせて炒めているため、黒い甘いあんかけになり、それを麺に乗せてかき混ぜて食べる。韓国では、合コンで出会った初対面の男女がいて、男性が「チャジャン麺」を食べに行こうと言い出した場合、相手の女性が気に入らないので帰ってほしいという意味合いが込められている。というのは、一般的に口元を気にする女性が初対面の男性の前で口元を黒まみれにしながら、「チャジャン麺」は食べられないからである。

ところで、日本の11月11日は「ポッキーデー」(Pocky Day)、韓国の11月11日は「ペペロデー (빼빼로 데이)」とされている。日本では、平成11(1999)年11月11日がポッキーに似ていることから始まっていると言われる⁽³⁴⁾。韓国では、そもそもペペロという菓子の長くてスリムな形のように「背が高くなってスリム (Slim) になれ」という意味で、1994年、中高生の間で互いにプレゼントをしたりしたことからは始まっている。そこに、ペペロの製造会社である韓国のロッテ製菓が販売促進に乗り出したこともあり、今日の社会では「記念日」として、ほぼ定着している。しかし最近、「ペペロデー」は恋人同士がプレゼントを交換する第3のバレンタインデーとなっている⁽³⁵⁾。

一方、グローバル化時代の日本では、バレンタインデーやホワイトデー以外にも多くの「記念日」はあるが、韓国のように認知度の高い「記念日」までには発展せずにいる状態である。

そこで、個々人は「企業や業界組合」の「記念日」を認知した上で記念する人もいれば記念しない人もいる。しかし、社会の「記念日」は、ほとんどが休みの日ではないものの、個々人としては大事にする傾向である。記念品を購入するため、店の前に長蛇の列をなすが、苦にしない様子である。忘れずにそれぞれの「記念日」に相応しい記念品を渡したり、祝い事を行おうとしたりする人が多い。政府や省庁レベル制定の「記念日」より、その波及効果が強く、若者を中心に「企業や業界組合」制定の「記念日」に追従していきと言える。

このように、グローバル化時代における日韓社会の「記念日」のほとんどは、その背景に販売促進を狙う企業の戦略が見え隠れしている。つまり、日韓の「企業や業界組合」が独自に制定しているか、外国から伝来しているか、あるいは制定の主体が明確ではない「記

念日」であるかは兎も角、その根源をたどれば、結局は「企業や業界組合」が背後にいる。日本や韓国の製菓会社、そしてアメリカの宝石協同組合が制定している「記念日」がそれを間接的に物語ろう。特に、グローバル化時代の韓国では、農業組合や企業が主導して、愛を中心とする若者の「記念日」を作り出す積極的な役割を果たしている。日韓社会における「企業や業界組合」の「記念日」だけに注目すれば、韓国のほうが日本より躍動的であり、グローバル化時代の企業戦略も日本以上に激しい社会であると言える。

おわりに

日韓の政府や省庁、「企業や業界組合」の定めている「記念日」、これらの中でも社会に広く認知されているものを中心に、前近代、近代国民国家成立以降、グローバル化時代の3つの時代に分けて考察を行った。

まず従来、明確ではなかった「記念日」とは何かの定義を行い、「記念日」は「明るく晴れのイメージ」に周期性があり、「記念」は「記念日」と同じイメージではあるが、周期性がなく単発的で一過性の「記念する日」であることを明らかにした。その上、前近代の諸行事の24節気、他の様々な行事、人生節目の誕生日について分析を行った。誕生日に関わる行事を除けば、そのほとんどは農耕社会に基盤をおくものであり、定義してきた今日の「記念日」に当てはめられる。しかし、前近代の諸行事は一般的に「年中行事」（韓国では歳時風俗）と言われており、諸行事に国家や政治権力のようなものは表に現れない。また、前近代の諸行事は、「年中行事」（歳時風俗）と言うものの、「記念日」とは言わない。このことから「記念日」という用語は、近代国民国家成立期を境に用いられているものと考ええる。

近代国民国家成立後、日韓では政府や省庁の主導する「記念日」が制定されて、特に韓国では政府レベルの「記念日」が数多く制定されていた。日本では国家的「記念日」は少ないが、天皇制が存続しているため、国家的イデオロギーが伝わりやすい。一方、韓国は「記念日」を通して国家的イデオロギーを形成して伝達しようとする意識が強いため、政府主導の多くの「記念日」が制定されたと言える。ところで、日韓それぞれの政府レベル制定の「記念日」には、背景に都合のいい理由付けや恣意性が潜んでおり、国民統合を図るという狙いが強く働いている。さらにこの時期、日本社会には欧米から「記念日」が伝わり、「企業や業界団体」による「記念日」も芽生えてきた。日本の社会レベルの「記念日」は韓国に伝わり、日本と類似した「記念日」が韓国にも定着し、日本の影響が強いということもかいま見える。

日韓にグローバル化時代が到来すると、両社会では盛んに新しい「記念日」が作られ、365日が「記念日」である状況を作り出す。一方、政府や省庁レベル制定の「記念日」は小康状態である。この時代には膨大な「記念日」が作られるが、すべてが社会に広く認知され、定着されているわけではない。但し、韓国の「企業や業界団体」が作り出した多様

な「記念日」は、韓国の独自色をみせながら発展し、その多くが社会に広く定着している。

社会に広く認知されている「記念日」を、個々人が守るか守らないかは自由意志である。しかし、政府や省庁レベル制定の「記念日」より「企業や業界組合」の「記念日」に追随するような傾向が強いと言える。というのは、「企業や業界組合」の「記念日」が休みの日でもないにも関わらず、時間を割愛して「記念日」ごとの商品を購入したり、「記念日」に相応しい行動を取るため熱気に充ちているからである。政府制定の「記念日」には受身的で、「企業や業界組合」の「記念日」に対しては意図的、かつ積極的に巻き込まれている様子である。その意味で、グローバル化時代に「企業や業界組合」が社会に広めている「記念日」は政府や省庁レベル制定の「記念日」より、大きな影響力を発揮しているのである。

近代国民国家成立以降、日韓社会における政府レベルの「記念日」を除く、他の「記念日」を日本が主導していたとするなら、グローバル化時代には韓国社会の「記念日」が活気づいていて、日本をリード (Lead) するような状況である。これは両社会の新しい「記念日」の定着の状況から言えることである。日韓社会の「記念日」の背後には、販売促進を狙う企業の戦略が見え隠れしている。韓国では農業組合や企業が主導して、愛を中心とする若者の「記念日」を作り出す積極的な役割を果たしている。

取りも直さず、グローバル化時代には日本より韓国の企業のほうが社会に対する商売戦略を強く押し進め、この動きに対する個々人の反応も韓国が積極的である。その意味で、韓国社会は躍動的であり、グローバル化時代の企業戦略も日本以上に激しいと言えよう。

注

- (1) 『ジーニアス英和大辞典』(大修館書店、2013年)
- (2) 『広辞苑(第4版)』(岩波書店、1994年)
- (3) その意味で、アメリカ (America) の5月30日、すなわち「Memorial day」を「戦没者追悼記念日」や「戦没将兵記念日」と和訳するのはやや違和感がある。「戦没者追悼の日」、「戦没将兵追悼の日」、または「追悼の日」とするのがより正しいと考える。
- (4) 休みの日である日本の「国民の祝日」や韓国の「公休日」については、拙稿「「国民の祝日」と「公休日」を通してみる日韓社会」(『言語と文化』15号、甲南大学国際言語文化センター、2011年)で、すでに検討を行っている。
- (5) 『年中行事事典』(三省堂、1999年)と『年中行事大事典』(吉川弘文館、2009年)である。
- (6) 『韓国歳時風俗事典』(国立民俗博物館、2006年、韓国)
- (7) 『春夏秋冬 24節気 (봄 여름 가을 겨울 24절기)』(ウリヌリ (우리누리)、2006年、韓国)

- (8) 拙稿「韓国の食文化－食材をめぐる異文化理解－」（『教育タイムス』教育タイムス社、2004年8月11日）では、三伏に食べる料理について述べている。
- (9) 前掲拙稿「「国民の祝日」と「公休日」を通してみる日韓社会」の134～135頁を参照されたい。
- (10) 前掲『年中行事事典』の1頁によれば、「節供」は江戸時代初期まで使われた用語で節日の供物の意味であったが、供物をする日となった。「節句」は平素と区別される日、単なる区切りになる日という意味とされる。一方、韓国では「名節」と言われている。
- (11) 林在海「歳時風俗の変化と公休日政策の問題（세시 풍속의 변화와 공휴일 정책의 문제）」（『比較民俗学』第10号、比較民族学会、1993年、韓国）
- (12) 洪錫謨著・李錫浩訳『東国歳時記』（良友堂、1988年、韓国）
- (13) 『韓国風俗誌』（乙酉文化社、1988年、韓国）59頁。
- (14) 前掲『韓国風俗誌』63頁。韓国の百中と盂蘭盆会については、具美来「百中と盂蘭盆齋の発生起源に関する研究（백중과 우란분재의 발생기원에 관한 연구）」（『比較民俗学』25輯、比較民俗学会、2003年、韓国）、そして日本の盆と韓国の百中に関しては、魯成煥「韓国の百中と日本のお盆（한국의 백중과 일본의 오봉）」（『比較民俗学』35輯、比較民俗学会、2008年、韓国）を参照されたい。
- (15) 忌祭祀については、拙稿「日韓社会の人生儀礼における「祭」とその始まり」（『言語と文化』14号、甲南大学国際言語文化センター、2010年）174～175頁を参照されたい。
- (16) 『韓国の歳時習俗』（法政大学出版局、2003年）202～203頁。
- (17) 「為政篇」（『論語』岩波文庫、岩波書店、2005年）では、「子曰、吾十有五而志乎学、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲、不踰矩」と記している。つまり、孔子は60歳になって人の言葉が素直に聞かれ（耳順）、70歳になると思うままに振る舞ってそれで道をはずれないようになった（從心・不踰矩）とする。
- (18) 今日、20歳になって「成人式」（韓国では「成年式」という）を行うのは、近代国民国家成立期の産物であると考えられる。これに関しては稿を改めて論じることとする。
- (19) 1948年7月20日「国民の祝日に関する法律」（『法律』第178号）
- (20) 1952年頃までの日本の新聞紙上では、ポツダム（Potsdam）宣言受諾の降伏文書に調印した9月2日をもって「降伏の日」や「降伏記念日」、そして「敗戦記念日」とも呼んでいた。1982年4月13日、「全国戦没者追悼式」（8月15日）を閣議決定しているが、「戦没者を追悼し平和を祈念する日」というのが趣旨である。毎年、8月15日の行事には総理大臣や天皇までが出席しており、一般的には「終戦記念日」、あるいは「終戦の日」という。ところで、この行事は、毎年、周期的に行われている。

るため、一過性の意味合いが強い追悼式という名称を付けるのは相応しくない。したがって、毎年、周期的という意味合いを表す追悼式なら、「〇〇周期の追悼式」としたほうが正しいと考える。

- (21) 1973年3月30日「各種記念日などに関する規定 (각종 기념일등에 관한 규정)」(『大統領令』第6615号、韓国)
- (22) 2013年6月17日改定「各種記念日などに関する規定 (각종 기념일등에 관한 규정)」(『大統領令』第24609号、韓国)
- (23) 1949年6月4日「官公署の公休日に関する件 (관공서의 공휴일에 관한 건)」(『大統領令』第124号、韓国)
- (24) 前掲拙稿「「国民の祝日」と「公休日」を通してみる日韓社会」の144頁を参照されたい。
- (25) 『記念日・祝日の事典』(東京堂出版、2008年)の24頁。
- (26) 前掲『記念日・祝日の事典』の38頁。「ホワイトデー (화이트 데이)」(White Day)が日本で発案されたのは、日本の文化と無縁ではないと考える。というのは、日本人は人からものをもらった時、お返しをする習慣があり、これを逆手にとって企業が作った「記念日」と言えよう。
- (27) 『366日記念日事典』(日本記念日協会、創元社、2009年)
- (28) 前掲『記念日・祝日の事典』
- (29) 韓国の他の語呂合わせの日は、「5月2日」の「オイデー (오이 데이)」(キュウリの日)、「6月4日」の「肉脯デー (육포 데이)」(干肉の日)、「9月2日」の「クイデー (구이 데이)」(串焼きの日)などが取り上げられる。
- (30) 「ポッキー Wikipedia」によると、日本では食品メーカーの江崎グリコが、1999年に制定したとされる。
- (31) 韓国で農業組合の人々は、11月11日を「カレットクデー (가래떡 데이)」(棒状の餅の日)にしようとしている。つまり、カレットク (가래떡) (棒状の餅)は棒と同じ形だからである。この他にも形から指定した日は、「8月8日」の「クァベギデー (짜배기 데이)」(ひね揚げ菓子)がある。「8」という数字が、ひね揚げ菓子のようにねじ曲がっている形から付けている。
- (32) 前掲『記念日・祝日の事典』
- (33) 『日刊スポーツ (스포츠)』(2008年2月14日、韓国)と『忠清日報』(2009年12月14日、韓国)
- (34) 「ペペロ Wikipedia」による。
- (35) 前掲『日刊スポーツ (스포츠)』(2008年2月14日、韓国)

"An anniversary of Society" in Japan and Korea

Kim Tae Ho

Abstract

The vaguely undefined word "Anniversary" is now defined in terms of a "Commemoration day" which is periodic, and "Commemoration" which occurs transiently as single events. Various events and traditions established in pre-modern times are based on agricultural society, and are applied to the present definition of "Anniversary". However pre-modern events called "Annual Events"(in Korean, "seasonal customs") and traditions are general in scope and politics or national power are not apparent in these events and traditions. The term "Anniversary" was not used in pre-modern national times to describe seasonal events (seasonal customs) and traditions but it is thought that it was used when the nation crossed into modern times. After the modern state came into existence, many "Anniversaries" were enacted by governments and the ministries in Japan-Korea, and the people and the nation approved, "Anniversary" was also introduced from Europe and America to the society. "Anniversaries" in Japan and Korea were established, and "Anniversaries" connected with business in society blossomed. "Anniversary" at the government level was often enacted during this time, especially in Korea. Incidentally the Japan and Korean governments enacted at various levels examples of "Anniversary" that had in their background a convenient hidden purpose and arbitrariness which was the integration of the nation. With the occurrence of globalization, Japan and Korea made an "Anniversary" which included the idea of anniversaries 365 days year. On the one hand, most "Anniversaries" enacted by the government and the ministries are not practiced in earnest. All are widely acknowledged by the society, but are not precisely established in practice. However, various "Anniversaries" that were made by Korean industrial groups demonstrate Korean character and are widely established in society. Each individual tends to freely participate or not participate in anniversaries widely acknowledged by society. However individuals tend to follow government ministry established anniversaries. In spite of industrial groups not having holidays, "Anniversary" products are widely purchased with much enthusiasm. Generally, where people are passive about "government established anniversary" while they are aggressive in introducing "enterprise- or industry-fixed anniversary" and participating in them. In this respect, the latter type of anniversary spreads more easily in the age of in globalization can be said to have stronger impact than the former type of anniversary. If Japan had more actively

initiated anniversaries in both Korea and Japan, in this global age, Korea anniversary now would be more influential to society and even leading Japan. This is based on the fact that these new "anniversaries" established by two societies have been accepted. One can imagine the corporate strategies to promote more business in the background of "anniversaries" by Japan-Korean societies. In Korea, agricultural organizations and corporations play a crucial role in creating "anniversaries" that are related to romance. Above all, Korea corporations promote these business strategy more aggressively than Japanese corporations, and individual participation is a lot more active in Korea.